



安全・安心なまちへの提言へ！住民の目で見守る通学路 気軽に集まれる街角広場から！

ひがしまち街角広場運営委員会委員長 赤井 直

「ひがしまち街角広場」ができたきっかけ

全ての始まりは2000年、当時の建設省（現国土交通省）が「歩いて暮らせる街づくり」モデルプロジェクト事業として全国20地区を選定したその一地区として、新千里東町が指定されたことにある。

それに併せて、地域では「歩いて暮らせる街づくり」調査検討委員会を構成し、私も住民代表のひとりとして委員を務めた。そうした活動がオールダウン現象が顕在化しつつあった千里ニュータウンが再び活力ある街へと変わっていくきっかけとなったのである。

千里ニュータウンは昭和30年代の高度成長期、大阪都心から北へ15kmにある千里丘陵（1160ha）が開発されてできた日本最初の大規模ニュータウンである。その中でも新千里東町は全て集合住宅であり、公営賃貸住宅が約7割、しかも40㎡から60㎡ほどの広さが主流の画一的な住宅構成であった。

入居当初は狭い都心のアパートから憧れの団地に入居し、夢いっぱいであった。しかし、子どもが成長し、独立する時期となると三世同居は無理である。町内に民間賃貸住宅がないために、ニュータウン外で子ども世代が生活をす

るようになり次第に入居、世のみが町に残った。気がつけば緑豊かな落ち着いた街へと成長した反面、人口減少と高齢化がどんどん進行していったのである。入居時30代から40代が主流であった人口はすでに60代半ばを超えている。小学校の生徒数は昭和50年代半ばの1458名をピークに減少を始め、「歩いて暮らせる街づくり」開始時には最小163名にまでなっていた。

住宅・施設は老朽化や生活スタイルに合わなくなったりと不自由を感じることもとなり、分譲住宅では建て替えの方向が決まり、実行段階に入っていたところだった。

しかも、入居時は皆、高度成長期の戦士としての生活を送っており、家は「ねぐら」そのものであった。地域のコミュニティなどは成立せず、ほとんどの住民が家と駅との往復で地域とは無関係で、一部の人達に地域の運営は任されていた状況がある。

この高齢化のすすんだまちでどうすれば人々が交流し、支えあいながらいきいきと暮らす住み良いまちにできるかが課題となっていた。また、実際に生活時間に余裕ができてきたことにより溜まり場的な場所が欲しい、という要望も顕在化していた。

「ひがしまち街角広場」の誕生

そこで、そうした課題を解決するべく、調査検討委員会では以下のように3つの方向と7つの提案をまとめた。

- ◎3つの方向
 - ①多世代居住住宅の供給
 - ②交流・活動空間の整備
 - ③交流・活動の組織・仕組み・拠点づくり
- ◎7つの提案
 - ①多世代居住のための多様な住宅を作ろう！
 - ②学校をコミュニティの場に活用しよう！



5周年記念行事には地域の和太鼓（小中学生）が演奏に来てにぎやかに

- ③ 近隣センターを生活サービスと交流の拠点にしよう!
- ④ 千里中央を地域の生活・文化の拠点にしよう!
- ⑤ 公園を緑の交流拠点にしよう!
- ⑥ 緑道を人々の出会いのある生活・交流軸に育てよう!
- ⑦ 交流とまちづくりの組織・仕組み・拠点を育てよう!

これをもとに豊中市が社会実験として6か月の期間を限定し、空き店舗活用で場所を確保し、地域で運営するように依頼された。公募30名の実行委員は即実行ということで「ひがしまち街角広場」の命名と開設を10日間で仕上げた。珍しさもあって多くの来訪者を迎えていたが、限定期間の目が迫るに連れて、このまま続けていけないかとの声が聞かれるようになった。豊中市にその旨を伝えると、快く了解してくれた。



「お水ちょうだい!」学校帰りの一コマ。スタッフとの会話をしながら



正月は「千里竹の会」が立派な門松を飾ってくれる

したがってその日から地域での全くの自主運営をすることとなり、賃貸契約をやり直し再出発をした。

「街角広場」は発足から6年がたち、今では地域をはじめ日々の生活にも存在感ある交流、情報集積、発信の拠点と認知されるようになった。これには豊中市行政、地域住民はもちろん、学識関係各位の絶大な支援と協力をいただいたことと感謝している。

■「ひがしまち街角広場」はどんな場所になったのか

「ひがしまち街角広場」は、午前11時から午後4時まで開設しており、次のような場所として地域の人たちに親しまれている。

① いきつけの場所

一般的には市街地や駅前の商業地区には、通常「行きつけの場所」が存在するが、その役目であるべき近隣センターは魅力が低下し、高齢

者にとっては家で過ごすことが多くなっている。一定時間帯に常に開いている「街角広場」は「話をしたい人」も「人々の交流をながめながらコーヒーを楽しむ人」も気軽に時を過ごせる雰囲気をもつことから「いきつけの場所」となった。

② 地域交流のきっかけ

来訪者の中には最近引越してきたために地域のことがわからない人もいる。そんな人は街角広場を訪れて、ボランティアスタッフや来訪者同士の会話から地域の情報を得て、地域になじんでいくきっかけになる場所になっている。また、長く住んではいたが街角広場であらためて親交を深めていくこともしばしばである。

③ 多世代交流の場所

小学生は下校時に立ち寄り、スタッフや高齢者などの来訪者と顔馴染みになっている。のどが潤いて水を飲みに来る子ども、何気なくスタッフや大人との交流を求めてくる子ども、ちょっとかり宿題をスタッフや来訪者といっしょに済ませてしまう子ども等、ほほえましいシーンもある。中学生はクラブ活動途中に水を求めてきたり、街角の模様替え時など力仕事は手伝ってくれることもある。

また、子どもから囲碁を習いたいとの申し出から囲碁教室が生まれ、現在文部科学省の「子どもの居場所づくり」の囲碁教室となっている。さらに、「子ども見守り隊」の休憩場所として、学校の情報を掲示し地域との接点にもなっている。

④ 安心できる場所

核家族が多く、両親が共働き家庭の子どもは土曜日や下校時刻以降は街角周辺で遊び、怪我

をしたときや喧嘩をしたときなどの仲裁も求めてくる。地域内に知人を持たない単身者等には急な事情が発生した場合の「駆け込み寺」的な役目も担っている。

地域のことをよく知るスタッフが常にいる「街角広場」ではいろんなことへの対応ができるようになった。

⑤気軽に地域活動が出来る場所

地域の活動や行事のための施設として、近隣センターに「新千里東町会館」や東丘小学校内に「東丘コミュニティルーム」がある。しかし利用方法が簡便でないため、制約が少ない「街角広場」を気軽に利用する。

平常の開設時間以降は集会・パーティーなどに場所を貸している。昼はアルコール禁止だが、午後4時以降は自由に利用できることにしている。したがって利用は多岐にわたっているが、モラルが行き届いているので常に完全に現状復帰がなされ今日まで不備はなかった。これも地域力だと感じている。

また、「千里グッズの会」(千里の絵葉書づくりなど)、「千里竹の会」が発足した。街角の行事で「たけのこ掘り」に参加した人が、竹やぶの手入れが必要であると提唱し、行政と折衝の結果、竹やぶの管理をする会ができたのだ。今では100名を越す会員が竹林整備と管理を委託されている。

それから最近、保存資料としてスタッフの日記、研究者の論文、マスコミ報道など5年間の資料を「街角アーカイブ」としてまとめた。これは他地域から来る視察見学者の参考資料とし

て役立つている。「街角広場」は「内」だけでなく、「外」にも開かれていたのである。

■地域の安全・安心を確保する取り組み

「歩いて暮らせる街づくり」の結果「ひがしまち街角広場」のほかに地域の主要遊歩道1.5kmに19基のスーパードライ灯が設置された。

この遊歩道は植栽の豊かな遊歩道であり、生活道路でもある。木々の緑が茂るこのすばらしい環境を保全するため、遊歩道の清掃管理を目的にアドプトシステムを活用し「アドプト道路」の清掃を毎月一回地域住民が行っている。参加は特に動員はしていないがときには100名を越すこともある。清掃後は街角広場からお茶が提供される。暑い時は氷で冷やし、寒いときは温かいお茶。時にはケーキやジュースなどが加わることもある。



街角広場には昼寝に来るひともある

「子ども達が常に自由に出入りできる場所があり、そこでは大人が守ってくれる」。これこそ子どもの居場所であり、世代間交流ができる場所である。

■日々の中から

今後の課題は、場所の確保である。千里ニュータウンは大きく変わりつつあり、その波が「街角広場」にも押し寄せている。安定した場所の確保と、「街角広場」の意義を地域で共有していくことが必要だ。

午後のひと時、一人暮らしの高齢者がいつも街角広場に昼寝に来る。家で寝る方が静かなにどうして？ やはり人に囲まれていることが安心なのであるうか。奥さんを介護している男性が、コーヒーを楽しみに来ては夕食の調理方法を教えてもらい帰っていく。ここでお茶を飲む時がほっとできるひと時だといつも話している。街角広場は今や、地域にとって重要な場所になっている。

安全・安心は地域の皆が常に意識していないと保持していけない。発信拠点として街角から言いつづけ、実行していくという役割が街角広場にはあると感じている。

〔注〕

(1) アドプトは養子縁組のこと。住民や企業が、公物管理の「里親」となって、植栽や清掃等の平時の施設維持管理を行うシステム。(国土交通省HPより)

(2) 現在は家主の理解の下、安定しているが、40年を過ぎた場合、以後のことについて保障はされていない。